



—東地中海地域ニュース—

トルコ:クルド問題をめぐる民族的対立の兆候 (11月30日～12月1日付現地報道)

1. PKK (クルディスタン労働者党) 創設記念日 (31年目) とされる11月29日、PKK支持者の集団がイスタンブール、メルシン、ディヤルバクル、ウルファなどの各地で違法デモを行い、警察署やパトカーに火炎瓶を投げ込んだり、市バスを占拠するなどの暴力行為を行った。メルシンでは一時暴徒約400名が集まるなど、騒然となった。事件は翌30日も続いた。
2. AKP政権による「クルド問題解決のためのイニシアティブ」に関し賛否が議論される中、PKKおよびDTP (民主社会党; クルド系) のプロパガンダに対し分離主義反対を主張するトルコ民族派の感情に高まりが窺われ、一部で暴力的対立が見られることは危険な兆候である。
3. 11月22日にはイズミールで、テュクルDTP党首が乗った車列が反クルド的グループから投石されるなどして、介入した警官を含む11名が負傷した。また、27日にはチャナツカレでクルド系の若者2名と兵役から一時帰郷していた若者2名の喧嘩が拡大し、一時は後者に与する約2500名の群衆が反PKKの抗議デモを行い、一部がクルド系居住地区で住宅に投石するなど騒然とした。